

わたしの好きな昔話（2）

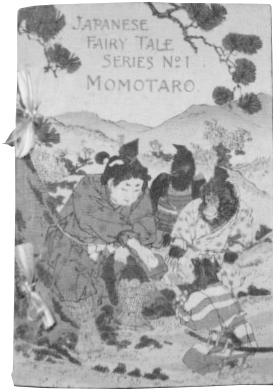
『桃太郎』（ちりめん本）



梅野 絵美



みなさんは、日本昔話と聞いて何を一番先に思い浮かべますか？『竹取物語』、『浦島太郎』、『ねずみの嫁入り』など、日本にはたくさんのお伽噺がありますが、私がまず思い浮かべるのは、桃から生まれた男の子が鬼退治に出かけていく『桃太郎』です。日本人なら誰もが知っていると言っても過言ではないくらい有名なお話でしょう。私は、桃太郎の鬼たちに立ち向かう勇氣あふれる姿が大好きです。理由はこれだけではありません。私は自身の留学を通して、『桃太郎』が日本だけでなく世界にも通じる物語だと知りました。また、留学先での私の経験とこのお話は、一つ大きく共有する事柄があったのです。



『桃太郎』（ちりめん本、明治19(1886)年刊）

私が留学していたカナダという国は、色々な人種で成り立っているために、個人個人が違う感性や興味を持っていて、すごく刺激のある場所でした。現地の友達と日本について話すことが多かったのですが、そんな中で話題に出てきたのが『桃太郎』でした。この物語は日本の昔話の中でも海外で最も有名なお話の一つだったのです。私は最初なぜ彼らが日本のお伽噺を知

っているのかと不思議だったのですが、きっと、外国人でも受け入れやすい勧善懲悪の思想が展開されているからでしょう。海外にもスーパーマンやバットマンといった勧善懲悪のアニメーションが昔からありましたからね。また、アメリカに留学していた友達が『桃太郎』の英語劇を行った時も大好評だったそうです。『桃太郎』は、日本だけでなく世界に受け入れられる物語なのだ、とこの経験を通して強く実感しました。

私が『桃太郎』の中で一番好きな場面は、桃太郎とサル、イヌ、キジという3匹の仲間が力を合わせて鬼退治に向かっていくシーンです。きっと桃太郎一人だけでは鬼を退治することはできなかったのではないのでしょうか。それと同じように、私は留学中に日本から応援してくれる家族や友達、現地ですぐれた仲間のおかげで、辛い経験を乗り越えることができました。きつこの物語は、そんな仲間の大切さを私たちに教えようとしているのではないかと思います。

何気なく私たちの周りにあり、しかし忙しい生活の中で忘れがちな大切なことを教えてくれるのが、日本昔話の『桃太郎』だと思います。明治時代に在日欧米人によって海外に広まっていった、日本のお伽噺や伝説が書かれた「ちりめん本」。『桃太郎』も、この背景があったからこそ、ここまで世界に認められる物語になったのではないのでしょうか。このお話を私たちは大切に守っていかなくてははいけません。そして次の世代、またその次の世代にも、このすばらしい物語を残していきたいと思います。

うめの えみ（英米語学科3年次生）